

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 43	提案機関名 農業技術センター横浜川崎地区事務所
要望問題名 ナシのワタアブラムシに対する各種ネオニコチノイド薬剤の抵抗性検定	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 【背景】 ナシのアブラムシ類の防除については、ネオニコチノイド系の殺虫剤が主体となっているが、近年その薬効の低下による被害が拡大、指摘されている。 【内容】 防除暦に反映できる剤の選定のため、各種ネオニコチノイド剤の横浜・川崎のワタアブラムシ薬剤感受性検定をお願いしたい。 【対象地域及び規模】 横浜市・川崎市 ナシ生産農家 300 戸	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 農業技術センター	担当部所 生産環境部病害虫研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	
対応の内容等 ワタアブラムシにはバイオタイプがあり、そのタイプごとに薬剤抵抗性が異なることも知られています。 過去には、梨に寄生した一部のワタアブラムシでネオニコチノイド剤の効果が低下していると栃木県から報告がありますが、この個体群が九州地域で発生している果菜類を中心としたネオニコチノイド系薬剤感受性低下を示すワタアブラムシ個体群と同一の個体群、あるいは同一の抵抗性機構によるものなのかは不明です。 また、梨にはワタアブラムシ以外の種も寄生することから、まずは現地のワタアブラムシによる防除状況、被害状況、およびその程度を的確に把握したいと考えておりますので、ご協力いただくとともに、病害虫防除部とも連携して対応させていただきたいと思っております。 併せて、農研機構、あるいは近県からの情報収集に努めるとともに、その結果を随時提供させていただきます。	
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	